

日付:2016年10月16日／聖書:エゼキエル書33:1～11

## 説教:「見張り人」

1969年6月、ウィリアムT・ランドール師は宣教師として家族と共にアメリカンボードからの派遣で沖縄に来た。ただ初めから沖縄への宣教を考えていたのではなかった。当初インドを希望していた。インドは1947年に植民地から脱却し自由を獲得。それはマハトマ・ガンジーを中心に軍事力によらず非暴力をもって自由を勝ち取って行った歴史に驚いた。ガンジーの非暴力主義には、マタイ福音書にある主イエスの山上の垂訓に基礎を置いていたことにも非常に驚きを覚え、この非暴力主義について研究を重ねた。神学校時代には、マーティン・ルーサー・キング牧師からも直接講義を受けた。…しかしインドへの道はその時代冷戦状態の中でアメリカ人はインドに入ることは許されなかった。そこで沖縄への宣教へ導かれる。沖縄への十分な知識は無かったが来てまもなく、沖縄が置かれた現状を知り、沖縄教会の問題点を指摘する。

それは、沖縄側の英語教会との癒着である。沖縄バプテスト連盟には、軍人・軍属9割以上の英語教会が3つあり、その癒着は、米軍に対する倫理的感覚、あるいは良心をマヒさせてしまうと危惧したのである。

ある時少女が、米兵に性的暴行を受ける事件があった。沖縄バプテスト連盟執行部は、軍に対し抗議声明を出そうと検討するが、英語教会への配慮からその案を取り下げた。また、ランドール師は、他の宣教師が米軍基地への出入りをフリーパスで行っていることを批判し、沖縄の牧師が入ることの出来ない所に自分が入ることは出来ないと断った。そのことは他の宣教師の怒りを買い、宣教師派遣もとからも批判を受け、事を改めなければ立場を保障しないと注意を受ける。そして1979年に「軍との不一致」を理由に宣教師を解任させられた。

神は、預言者エゼキエルに「見張り人」としての務めを求めた。ここは、「見張り人」が警鐘を鳴らすことの必要をいう。またその警鐘をしっかりと聞き取って行くことの大切さをいう。私たちのこの地は、いつの時代も混沌として悪に満ち、暴力の連鎖が後を絶たないかのよう、暴力に満ちている。その状況の中には、この地には「見張り人」が必要なのだと神は言う。私たちはその「見張り人」に成りうるか？その「見張り人」の警鐘を聞き入ることが出来ているか？私たちの教会はどうか？地の塩、世の光としての役割は担っているか？

もちろん十分ではないが、今、私たちに出来る教会としての「見張り人」の働きを、皆さんと一緒に担わせて頂きたい。(神谷)